

国名	アメリカ合衆国 (United States of America)			
主要な言語 <sup>1)</sup>	英語のみ78.2%、スペイン語13.4%			
人口学的データ <sup>1-3)</sup>	総人口 (人)	332.6万人		
	15歳未満人口割合(%)	18.1%		
	65歳未満人口割合(%)	18.5%		
	平均寿命 (歳)	77.5		
	5歳未満児死亡率 (出生千対)	5.9		
	妊産婦死亡率 (出生10万対)	21		
	中等教育就学率 (%)	男性(%)	No data	女性(%)
主要な死因 (2022年) <sup>2)</sup>	1位 心疾患 2位 がん 3位 不慮の事故 4位 COVID-19 5位 脳卒中			
主要な民族 (2020年) <sup>1)</sup>	白人 61.6%、黒人またはアフリカ系アメリカ人 12.4%			
主要な宗教 (2014年) <sup>1)</sup>	プロテスタント46.5%、ローマカトリック20.8%、他のキリスト教 2.5%、ユダヤ教 1.9%			
日本在留外国人 (%) <sup>4)</sup> (2023年)	62,425人 (1.9%)			
<b>文化社会的特徴</b>				
1. 特徴的な価値観・行動・生活習慣	<p>アメリカの文化の特徴としては、「文化のるつぼ」と言われアフリカ系、アジア系、ラテン系、先住民などさまざまな民族が暮らしている。そのため、アメリカ文化の中にさまざまなサブカルチャーがあり、それぞれの民族によって、自分たちの文化の要素を持ち込み、異なる信念、価値観、伝統や慣行を持っている多様性を示していることを認識する必要がある。</p> <p>&lt;アメリカ人の特徴的な価値観・行動・生活習慣&gt;</p> <p>①独立性と自立性を重視した個人主義の重視、自己主張が強く、物事をはっきり表現する。ポジティブ、自尊心が強い、競争心が強い、寛容で、多様性を受け入れる。</p> <p>②バックグラウンドに関係なく誰もが成功する平等な機会性を重視した機会均等の信念。</p> <p>③自分の意見を率直に表現した、コミュニケーションにおける率直性。</p> <p>④プライバシーを重視した個人の空間の尊重 (個人的に快適な距離は約 30 インチ (75 cm) 離れると良いとされる。アメリカ人に近づきすぎると、彼らは居心地が悪く感じ、窮屈に感じたりするため、個人的な距離を意識することが大事である。</p> <p>⑤他の人をファーストネームで呼ぶなど、形式ばらない態度やカジュアルな服装、社交的交流を好む態度。また、家族や異性の非常に親しい友人の間では、特に長い間会っていない場合、再会や別れに際しハグや頬へのキスが一般的な挨拶である。</p> <p>⑥スケジュールを順守した時間厳守は重要である。10 分または 15 分以上遅れる場合は、ホストに電話して遅れることを知らせるのが礼儀とされる<sup>5)6)7)8)</sup>。</p>			

<p>2. 重要な意思決定にあたって留意すること</p>	<p>アメリカでは、個人の尊重を重視する必要がある。個人の意見を持ち独立した個人主義の意見を持っており、自分で選択する環境を整えることが大切である<sup>9)</sup>。</p> <p><b>① インフォームド コンセントの徹底</b>  義務として医師は、検査、治療内容、処方薬の他に、医療行為をするに当たり、その内容及び効果をあらかじめ患者に説明し、結果についても適切な説明をする必要がある。</p> <p><b>② 共同意思決定 (SDM : Shared Decision Making)</b>  アメリカでは、医療者と患者が協働して患者にとって最善の医療上の決定を下すプロセスにより、患者と医療者が互いの知識や価値観を共有し、治療のゴールや希望、治療における互いの役割について話し合い一緒に意思を決定していく環境が求められる。患者にとって最善の選択肢が1つではない場合、共同意思決定によって患者が自分の価値観に合った選択肢を選択できるよう援助が期待されている。</p> <p><b>③ リスクと利点のバランス</b>  患者が治療のリスクと利点に関する事実を理解することが求められ、医療者は十分な説明を行うことが求められている。</p> <p><b>④ 事前指示 (リビングウィルと医療判断代理委任状の2種類がある)</b>  個人の尊重を重視する目的で、事前指示は自分で決定を下す権利を保護し、自分で発言できない場合に希望が尊重されるものであり、リビングウィルは終末期ケアに関する希望を表明する文書である。医療判断代理委任状は、医療に関する決定能力を喪失した場合に、その人(本人)のために決定を下す人(医療代理人など)を指名する文書である。これら書面により、個人の意見や希望を尊重する様求められている。</p> <p><b>④ 患者のエンパワーメント</b>  医療者は、患者や家族の健康上の問題解決に対し援助することが重要となり、患者は自分の健康管理及び、治療の選択肢について情報に基づいた決定を下すことが求められている。</p> <p><b>⑤ 医師とのコミュニケーション</b>  アメリカ人患者は医師とほぼ対等な立場であると認識し、互いに医療の話をする場面が多い。医師はあくまでも“アドバイザー”であり、意見を提示することで患者の意思決定を援助するのが本来の仕事であり、疑問や不安について医師と率直に話し合うことが重要である<sup>10) 11) 12)</sup>。</p> <p><b>⑥ 患者が意思表示できない場合</b>  Advance Care Planning (ACP : アドバンス・ケア・プランニング) : 重病になったり、自分の希望を伝えられなくなった場合に備え、将来の医療について話し合い、決定する準備をする。多くの人は、ACPの法的文書に記入し、自身の希望を文書化することを選択している。  Living will (リビング・ウィル) : 緊急治療について自分で意思決定できない場合に、受たい治療を医師に伝える法的文書である。リビング・ウィルの代わりに意思決定代理人を指定することが可能である<sup>13)</sup>。</p>
------------------------------	---

<p>3. 食文化</p>	<p>アメリカ人は一般的に、1日でもっと大きな食事は夕食である。これらの食事は、何らかの肉（主に赤身肉または鶏肉）、でんぷん（最も一般的なのはジャガイモだが、米も簡単に手に入る）と野菜を中心に構成されている<sup>14)15)</sup>。</p> <p><b>【朝】</b>          自炊：シリアルやトースト、甘いスナックなど簡単な食事          中食・外食：ドーナツ、サンドイッチ、ベークドサンドなどが人気</p> <p><b>【昼】</b>          自炊：サンドイッチや簡単なお弁当など（フルーツやスナックを添えることも）          中食・外食：ファストフード（サンドイッチやハンバーガー、中華、ブリトーなど）、またはカフェ、社内のカフェテリアなど</p> <p><b>【夜】</b>          自炊：平日は効率よく作れるレトルトや冷凍食品を使う          時間をかけて料理をするのは週末など時間がある時が多い          中食・外食：簡単に済ませたい時はピザやファストフードを利用することも週末や特別な日はレストランでゆっくりと食事を楽しむことも多い。</p> <p>*＜民族や宗教と食事＞          アメリカは移民が多いので、民族や宗教によっても食事内容は大きく変わる。たとえば、イスラム教の人は豚肉は食べられない。ハラールフードといって戒律に反しない食材を用いることが基本となる。ベジタリアンやビーガンのような植物ベースの食事スタイルの者もいるため、食材の選択は注意を要する。          その人がどの国をルーツに持つかによっても食事内容は異なる。          日本人なら日本の、韓国人なら韓国の、メキシコ人ならメキシコの食事を作る家庭も多い。</p> <p>*＜アメリカの基本的な食事マナー＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大皿から取る時に人の前に手を出して皿を取らない              大皿を順番に回していき、自分を取りたい量だけ取る。</li> <li>・皿を手で持ち上げない              食べる時には、皿を手で持って食べるのはマナー違反。皿に口を付けて食べるのも行儀が悪く、原則としてフォーク・スプーンなどで口に運ぶ。例外としてスープボウルやグラスは、手に持って直接口に運んでも問題ない。</li> <li>・スープはかき混ぜない              味噌汁やスープなどをかき混ぜて飲むことはマナー違反。基本的にかき混ぜずに飲む。また、音を出さずに飲むようにするのもマナーの一つとなっている。スープだけでなく麺類も同様。</li> <li>・料理によっては手で食べてもOK              骨付きチキンなど、手で食べて問題ない。ただし、指についたソースや油をしゃぶるのは厳禁である。テーブルに用意されたナプキンで拭くのが正しいマナーとなる。</li> <li>・人前で楊枝は使わない              日本と異なり、たとえ手で隠したとしても爪楊枝を使用しない。歯に食べ物が挟まった場合には、基本的には食事が終わった後にお手洗いや洗面所で整えるのが正しいマナーとされる<sup>16)17)</sup>。</li> </ul>
<p>4. 衛生に関する価値観</p>	<p>アメリカでは、衛生は日常生活の重要な部分である。移民も多いため、アメリカでの適切な衛生習慣として、個人の衛生を維持し、家を清潔に保ち、近隣や職場などの公共スペースでの衛生規範を尊重することが大切と説明されている<sup>18)</sup>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均して、米国の女性は男性よりも1日に約4回多く手を洗っている（女性：1日に約11回、男性：1日に約7回）。</li> <li>・米国では、適切なタイミングで手を洗っているわけではなく、たとえば、傷の手当て、病気の人への世話、動物に触った後、または鼻をかんだ後に手を洗う人は、3分の2未満と言われている。</li> <li>・米国人の半数（53%）は、公衆トイレで手を拭くのにペーパータオルを好む。</li> <li>・多くの米国人は、他の人に感染するリスクがあるにもかかわらず、病気のときに仕事をしている<sup>19)</sup>。</li> <li>・多くが湯船に浸かることなくシャワーだけで済ませる。アメリカにも湯船に浸かる文化はあるが、公衆浴場のようなものは存在しない。</li> </ul>

<p>5. 受療および病人のケアに関する価値観・行動</p>	<p>&lt;アメリカ人患者の医療に関する行動&gt;  まずはおかかりつけ医であるPrimary Care Physician (PCP) を受診する。専門的な治療が必要な場合は、一般的にPCPが専門医を紹介するシステムである。PCPを受診した際、担当がNurse Practitioner (NP) になることも多い。NPは医師、Physician's AssistantとともにPrimary Care Provider (PCP)と呼ばれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療に関する決定における自主性を重視する。</li> <li>・自分の病状について情報提供を受け、治療計画に積極的に参加する。</li> <li>・医療専門家との信頼関係を重視している。</li> </ul> <p>(自分のニーズを伝える方法、デリケートな話題について話し合うことへのオープンさ、医師と患者の関係性に関する期待は、医療行動に大きく影響する可能性がある。)</p> <p>&lt;アメリカの患者の医療に関する価値観&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者中心のケア: ほとんどのアメリカ人は、医療提供者に敬意を持って扱われ、懸念を聞いてもらうことを期待しており、意思決定への協力的なアプローチを重視している。</li> <li>・インフォームド・コンセント: 患者は一般的に、自分の医療に関する決定を下す前に、自分の病状、潜在的な治療オプション、および関連するリスクに関する詳細な情報を求めている。</li> <li>・プライバシーと機密性: アメリカ人は医療情報に関するプライバシーを重視し、医療提供者が機密性を維持することを期待する傾向がある。</li> <li>・テクノロジーへの関与: 多くの患者は、オンラインで健康情報を積極的に探し、医師と所見について話し合うことがある。</li> <li>・医療へのアクセス: 多くのアメリカ人にとって、医療の費用対効果とアクセスしやすさは大きな懸念事項である<sup>20) 21) 22) 23)</sup>。</li> </ul>
<p>6. 妊娠・出産に関する価値観・行動</p>	<p>&lt;妊娠出産関連指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初産平均年齢：27 years (2019年)<sup>1)</sup></li> <li>・無痛分娩率：約7割<sup>24)</sup></li> <li>・帝王切開率：32.1% (2022年)<sup>25)</sup></li> <li>・代理母に関する法律は、各州によって異なる<sup>26)</sup>。</li> </ul> <p>妊産婦死亡率：米国の妊産婦死亡率は2018年から2021年にかけて増加し、アフリカ系アメリカ人、アメリカインディアン、アラスカ先住民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民の女性の割合が最も高くなっている<sup>27)</sup>。</p> <p>&lt;米国における妊娠と出産に関連する価値観と行動&gt;</p> <p>①虐待：約5人に1人の母親が、言葉による虐待や身体的プライバシーの侵害など、産科ケア中の虐待を受けているとの報告がある。</p> <p>②差別：黒人、ヒスパニック、多民族の母親の約40%が、産科ケア中の差別を受けているとの報告がある。</p> <p>③出生前ケア：専門家は、妊娠8週目から10週目の間に、産科医または助産師による13～14回の出生前診察を推奨している。また、アメリカでは出生前検査(NIPT)を約6割の人が受けると言われている。</p> <p>④出産環境：病院、出産センター、自宅で行われる出産の割合は、年齢、教育、その他の要因によって異なる。米国では出産の98%以上が病院で行われている。アメリカの出産文化では、出産方法として麻酔を使って陣痛の痛みを緩和する無痛分娩を選択する場合が半数以上と言われている。産後、母子共に健康な場合、最短24時間、通常は産後2日前後で退院となる。一般的に産科健診は医師のオフィスで行い、出産は医師や助産師が提携している病院で行う。米国の女性の大多数は分娩監視モニターと点滴が装着され、鎮痛剤の使用を勧められ、会陰切開を受け、米国では3分の1以上が帝王切開で生まれると言われている。</p> <p>⑤新生児のケア：アメリカでは、産婦人科が新生児のケアを担当するという一切なく、産後は小児科の専門医がその新生児の担当となる。産婦のケアは産婦人科の看護師、新生児の世話は小児科の看護師がするというのが一般的である。</p>

	<p>⑥ベビーシヤワーと保育室（赤ちゃんの部屋）の準備：文化・伝統的受け継がれている。ベビーシヤワーは、友人や同僚が妊婦に贈り物や赤ちゃんのための必需品を贈る人気の伝統。保育室の準備は、赤ちゃんの部屋を準備し、新しい家族の受け入れをする準備と心構えを行なうとも言われる。</p> <p>⑦文化的出産：米国の出産文化は複雑で、環境、人種その他の要因によって異なる。これまで伝統的な出産慣習の多くは、西洋の医療、教育、基準のモデルに置き換えられてきたと言われている。その中で最近ハワイでは、妊娠、出産、産後の伝統を育み、活性化し、復活させているネイティブハワイアンの、クークア（ドゥーラ）、擁護者、クム（教育者）、およびペイルケイキ（助産師）の数は増え続けており、伝統的な出産の保護と維持に活動している地域があるとも言われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費の支払い：米国の女性は、民間保険、メディケイド、自己負担など、さまざまな方法で医療費を支払う。</li> <li>・その他：1993年の家族および医療休暇法（FMLA）では、従業員50人以上の企業に勤務する新生児または新たに養子を迎えた子供の母親に対し、年間12週間の無給休暇を取得することが義務付けられている。なるべく長く産休をとるため、産まれるギリギリまで働く人が多い<sup>28)29)</sup>。</li> </ul> <p>&lt;補足&gt;30)31)</p> <p>助産師：米国には資格を持つ3種類の助産師がおり、それぞれ教育とトレーニングの要件が異なる。</p> <p>①認定看護助産師（CNM）：看護師免許が必要で、通常は病院や出産センターで勤務し、上級看護師とみなされる。CNMは出産期だけでなく、生涯を通じて女性にケアを提供するのに十分な資格がある。定期的な女性健康診断、婦人科検診、避妊および家族計画サービス、性感染症の治療など、さまざまなサービスを提供する。また、CNMは生後28日間の新生児ケアを提供する資格も持っている。</p> <p>②認定助産師（CM）：助産師としての勤務に関してはCNMと似ているが、看護師免許は必要なく、州の規制によっては勤務範囲が制限される場合がある。CMは大学院レベルの助産師学位プログラムを修了し、全国認定試験に合格した非看護師で、看護師としての資格はないが、CNMと同じコアコンピテンシーを満たし、同じ業務範囲を持つ。CNMと同様に、CMは思春期から閉経後まで、幅広いプライマリヘルスケアサービスを提供できる。</p> <p>③認定専門助産師（CPM）：自宅を含むより幅広い環境で勤務でき、院外出産に重点を置くことが多く、看護師免許は必要ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドゥーラー：助産はできない。産科ケア提供者ではないが、出産中の母親に身体的および精神的ケアとともに情報サポートを提供する。</li> </ul>
<p>7. 育児に関する価値観・行動</p>	<p>&lt;アメリカの子育ての価値観と行動&gt;</p> <p>①個人主義 アメリカ人の親は、独立性、勤勉さ、個人の自由を重視する傾向がある。彼らは、子供たちが自立し、自分たちよりも大きな物質的成功を収めることを望んでいる。</p> <p>②教えるべき特性 親は、親切さ、礼儀正しさ、創造性などの特性を重視する傾向がある。10代の子供を持つ親は独立性を重視する傾向があり、幼い子供を持つ親は創造性を重視する傾向がある。</p> <p>③子育てスタイル アメリカの親の多数は、自分の子育てスタイルを権威的または穏やかであると認識している。しかし、親は多くの場合、特定のスタイルに固執しない。18歳未満の子どもを持つアメリカ人の大半は、自分の子育てスタイルは権威主義的もしくは温厚であると答えており（それぞれ51%）、26%が権威主義的、18%が寛容的、15%が過干渉、12%が無関与であると回答している<sup>32)33)34)</sup>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれた時から自分の部屋があり、子どもは一人で寝かせ、夫婦の寝室には立ち入らせない<sup>35)</sup>。</li> <li>・一緒にお風呂に入らない</li> <li>・子どもの意見を尊重する</li> <li>・否定をあまりしない</li> <li>・アクティビティやボランティアの機会が多い</li> <li>・夫婦の時間を大切にする</li> <li>・半数が人工乳を選ぶ<sup>35)</sup>。</li> </ul> <p>④環状切除術 新生児期、乳児期に60%程度の男の子が包皮を切除する手術を受けている<sup>36)</sup>。</p> <p>⑤しつけと児童虐待 子どもへの体罰や、公衆の面前で子どもに対し大声で叱りつけるなどといった行為は児童虐待とみなされる場合がある<sup>37)</sup>。</p>

<p>8. 高齢者に関する価値観・行動</p>	<p>&lt;高齢者関連指標&gt;<sup>38)</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族との同居： 夫婦二世帯43.7%、単身世帯35.9%</li> <li>・就労： 収入の伴う仕事をしていない者74.5%</li> <li>・友人・知人との交流： ほとんど毎日71.9%</li> <li>・主な社会活動： 宗教・政治活動40.9% 自分の趣味や技能などを活かした支援活動29.4% 環境保全・自然保護活動21.7%</li> </ul> <p>&lt;高齢者の価値観の概要&gt;</p> <p>アメリカの高齢者は一般的に、独立性、強い家族のつながり、尊敬、健康、経済的安定、愛する人々と充実した時間を過ごす能力の維持を重視し、家族内での指導者や知識保持者としての役割を優先することがよくある。しかし、否定的な固定観念や年齢差別によってこれらの価値観が損なわれ、孤立感や重荷になることにつながる可能性がある<sup>39)40)</sup>。</p> <p>&lt;主要な価値観と行動&gt;</p> <p>①<b>家族重視</b>：子供や孫と過ごす時間は、最も重要な側面の1つであると考えられており、多くの高齢者は祖父母としての役割に大きな喜びを感じている。</p> <p>②<b>独立性の維持</b>：高齢者の多くは自立して生活し、他人に大きく依存することなく日常の活動を管理できる能力は高く評価されている。そのため、健康的で自立した生活を維持するためにも、生活習慣への対応や電子・情報技術の進歩に伴うアクセシビリティの保障や確保に重点が置かれている。</p> <p>③<b>尊敬と尊厳</b>：高齢者は尊敬と尊厳を持って扱われることを期待することが多く、年齢差別的な態度や行動に敏感になることがある。(アメリカには定年制度がなく、雇用者側が年齢を理由に解雇することは法律違反である。70代や80代でも、職務を全うできる限り働き続けることができる。定年制度があるのは、軍隊・公共交通機関の業務や警察官、消防士などが認められている)</p> <p>④<b>経済的安定</b>：十分な退職貯蓄と経済的安定は、多くの高齢者にとって大きな関心事であり、老後も希望するライフスタイルを維持できるようにするためと考えている。</p> <p>⑤<b>健康とウェルネス</b>：身体的および精神的に活動的であり続けること、健康的な食事を維持すること、予防医療を求めることは、加齢に伴う健康問題を管理する上で優先される。アメリカでは、「ウェルネス」「ウェルビーイング」という概念が重要視され、これには、高額な医療費や保険費用などアメリカの保険システムが関係している。保険負担を減らすという観点からも、健康を守るために病気になる前の予防医学として「ウェルネス」「ウェルビーイング」を重視している。</p> <p>⑥<b>コミュニティへの参加</b>：多くの高齢者は、社会的なつながりを維持し、コミュニティに貢献するために、ボランティア活動などに積極的に参加している<sup>41)42)43)</sup>。</p>
<p>9. 終末期・葬儀に関する価値観・行動</p>	<p>&lt;アメリカの尊厳死法(安楽死)&gt;</p> <p>アメリカの終末期医療には、ホスピスケアや緩和ケアなどがある。カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州、モンタナ州、バーモント州、ニューメキシコ州など、多くの州で尊厳死法が制定されている。ハワイ州では、余命6か月以内と宣告されたハワイの成人住民が、安楽死のために自己投与する薬物の処方要求を要求することができる。</p> <p>&lt;ホスピスケア&gt;</p> <p>アメリカでは、ホスピスケアの方が緩和ケアよりも普及している。これは、65歳以上であれば政府が提供するメディケア(ホスピスのケアを受けるためには、余命6か月未満という診断を受けることが必要)からホスピスケアの費用が支払われる背景も関係している。終末期の特徴として、アメリカでは、68%以上のホスピスケアの利用者は、自分が暮らしている場所(自宅、ナーシングホームなど)でホスピスケアを受けている。ホスピスの利用者の中心は、白人(82.8%)であり、ミックス・その他の人種(6.1%)、黒人/アフリカ系アメリカ人(8.5%)、アジア・ハワイアン・その他太平洋諸国(2.4%)、アメリカンインディアン・アラスカ先住民(0.2%)の人々の利用率はまだ低い状況にある。それらは地域や人種により大きく異なっている状況にあるとの報告もある<sup>44)</sup>。</p> <p>&lt;事前指示&gt;</p> <p>自分で決定を下すことができない時のために、事前のリビングウィルやその他の事前指示がある。医療に関する希望を文書化した法的指示であり、末期の病気、重傷、昏睡、認知症末期、または人生の終わりが近い場合、医師や介護者に選択を指示する事ができる。事前指示は高齢者だけのものではなく、予期せぬ終末期の状況はどの年齢でも起こり得るため、すべての成人がこれらの文書を準備することが重要とされている。また、医療やヘルスケアの委任状は、自分で決定を下すことができない場合に、本人に代わって決定を下す人を指名する事前指示の一種である。一部の州では、この指示は医療に関する永続的な委任状または医療代理人とも呼ばれ、終末期における個人の意思を尊重するために重要なものとされている<sup>45)46)</sup>。</p> <p>以前は土葬が一般的であったが、火葬率が上昇し、2021年は約6割であった<sup>47)</sup>。</p>

10. 本国の医療職・医療サービスに関する特徴

<医師と病院の対人口割合><sup>1)</sup>

医師：2.6人/1,000人(2018年)、病床2.9床/1,000人(2017年)

<アメリカの医療制度と医療サービスの特徴><sup>48)49)</sup>

- ・公的医療保険制度が全国民をカバーしていない
- ・医療費が高騰している
- ・医療機関によって医療費が異なる
- ・民間の医療保険が中心となっている

<アメリカの医療制度の特徴>

- ・先進国で唯一、日本のように全国民をカバーする公的医療保険制度がない。
- ・65歳以上の高齢者や障害者、透析や移植を必要とする重度の腎臓障害 (ESRD: End-Stage Renal Diseases)を持つ人を対象としたメディケア (Medicare Part A (Hospital Insurance) and Medicare Part B (Medical Insurance)<sup>50)</sup>、低所得者を対象とするメディケイド (Medicaid)<sup>51)</sup> という2種類の公的医療保険制度がある。メディケア、メディケイド制度の対象外となる者は、民間医療保険への加入を検討する必要がある。
- ・民間の医療保険が中心となっており、金銭的な理由により十分な保障が受けられず、適切な医療サービスを受けられない可能性がある。
- ・医療技術が非常に高く、お金を出せば先端技術の医療を受けることができる。

<プライマリケア医と専門医の連携について>

プライマリケアとは初期医療の意味で、アメリカ人は身体の不調があるとまず自分の主治医であるプライマリケア医に受診する。プライマリケア医は、別名ゲートキーパー医とも呼ばれ、患者を診察した上で、入院や専門医への受診が必要かどうかを判断する。プライマリケアと専門医による診療の境界をどこに引くか曖昧だが、一般にはプライマリケア医の良識的判断により、専門的な診療が必要とされた時に紹介 (Referral) がなされる。プライマリケア医にとって、信頼のできる専門医と連携することは重要である。アメリカの診療所 (Doctor's Office) は単なる診察室しかない場合も多く、一般にシンプルである。アメリカでは医療関連サービスの高度化により、医療行為の分業化が進んでおり、診療所はあくまで患者の診察をする場所で、レントゲン、CT、MRI、血液検査などの診断用検査は多くの場合、別の施設や病院で行われる<sup>52)53)</sup>。

<p>11. その他の保健医療に関する特徴</p>	<p>多人種・多民族国家である米国では、文化は医療制度において重要な要素であり、文化が医療に影響を及ぼすことが数多くある<sup>54)55)56)</sup>。</p> <p><b>①ヘルスリテラシー</b> ヘルスリテラシーは、言語や価値観、医療者との関係性やコミュニケーション、人々が医療制度や医療、健康についてどのように認識するかによって大きく影響される。英語能力の低い移民が多いアメリカでは、処方薬の指示を理解すること、医師の指示や同意書を理解すること、複雑な医療システムを理解する能力が低く、情報へのアクセス、理解、能力などに影響を及ぼす。</p> <p><b>②ヘルスマインドセット</b> ヘルスマインドセットは、人々が健康を追求するのに役立つ認知的、感情的、動機的、行動的要素であり、個々の持つ文化背景に大きく影響される。アメリカ人の健康に対する考え方は、国の多様性、歴史、社会的価値観を反映した文化的影響の複雑な相互作用によって形成されており、健康に対する態度や行動に影響を与える主要な文化的要因とされる。</p> <p>1. 個人主義 自立はアメリカ文化の強い価値観であり、人々の健康に対する見方に影響を与えている。多くの人は、個人が自分の健康の結果に責任があると考え、食事、運動、ライフスタイルの選択に対する個人の責任に重点が置かれることがよくある。そのため、健康およびウェルネス業界は、フィットネス、サプリメント、などの製品やサービスを提供している。</p> <p>2. 医療化とテクノロジー 米国は、技術革新と医療の進歩を高く評価し、健康問題を解決するためにテクノロジーと医学に信頼が置かれることが多く、医療専門家と医療システムへの依存にも関連しており、ホリスティック医療や代替医療は注目されつつも、まだ十分には重視されていない。</p> <p>3. 文化的多様性と健康習慣 米国は多文化社会であり、さまざまな民族や文化グループが独自の健康に関する信念や習慣を持ち込んでいる。たとえば、多くのラテン系コミュニティは家族による介護を重視しており、アジア系アメリカ人の文化では、西洋医学とともに伝統的な治療法を取り入れている場合がある。健康格差も存在し、少数派民族は医療へのアクセスが限られ、社会経済的要因により特定の病気にかかりやすい傾向があるとされる。</p> <p>4. 「即効性」の考え方 アメリカ人は健康問題に対する即効性のある解決策を求めることが多く、それは流行のダイエット、減量サプリメント、低侵襲手術の人気に表れている。即効性を好む傾向は、持続的な身体活動やバランスの取れた食事などの長期的な健康的な行動との矛盾を生じ背景としている。</p> <p>5. 予防的健康とウェルネス 特に裕福で教育水準の高い人々の間では、予防的健康の傾向が高まっており、ウェルネス文化は、ヨガ、瞑想、オーガニック食、メンタルヘルスの意識などの実践を促進している。</p> <p>6. メンタルヘルスの意識 近年、メンタルヘルスの重要性を認識する方向にシフトしており、セラピーやカウンセリングを求めることがより受け入れられている。</p> <p><b>③Cultural コンピテンシー</b> Cultural コンピテンシーとは、多様な背景を持つ患者に、文化的理解を示しケアを提供できる能力である。Cultural コンピテンシーが重視される背景には、多人種・多民族国家である米国では、医療を提供する側も様々な人種・民族の多様な価値観、信念、行動を有している。そのため、医療提供者と患者双方の文化的理解能力の必要性が求められている。</p> <p><b>④多言語翻訳サービス</b> 米国の多くの病院では、患者、看護師、医師向けに多言語翻訳サービスを提供している。</p>
---------------------------	---

<p>12. 教育制度</p>	<p>小学校： 5年          中学校： 3年          高等学校：4年          大学： 4年<sup>57)</sup></p> <p>義務教育期間は、キンダーガーデン（幼稚園）を含む5歳から17歳までの13年間。公立学校では学費と教科書が無料で、義務教育の年齢は州によって異なる。16歳までを義務教育とする州が多いが、18歳としている州もある。</p> <p>ハワイでは、ほとんどの学校は、小学：5年・中学：3年・高校：4年だが、一部地域（カイルア、カネオヘ、モアナルアなど）では、小学校6年、中学2年、高校4年のところもある。</p> <p>ほとんどあるいは全く英語を話せない移民の子どもたちの流入など、アメリカの多人種・多民族化・多文化社会を背景に、教育制度の多様性やさまざまな文化を反映したカリキュラムなど、多様性を反映した各種対応策がとられている。外国人向けの授業、ギフト教育、在宅教育など、多様性を重視した教育が公立学校でも行われている。アメリカ50州では、各州が独自の法律で教育を規制している。各州に共通する規則もあれば、州によって異なるものもある。</p> <p>・中退者<sup>58)</sup>          16～24歳のステータス中退者210万人、中退率5.3%（2022年）          （ステータス中退者： 学校に在籍しておらず、高校の資格は未取得）          主なステータス中退者          アメリカインディアン/アラスカ先住民(9.9%)          太平洋諸島系(9.1%)          ラテンアメリカ系(7.9%)</p>
<p>13. その他の特徴</p>	<p>その他の文化</p> <p>【飲 酒】 飲酒可能年齢は21歳から。お酒の購入時年齢確認のために身分証明書の提示を求められる。</p> <p>【 街 】 中華街、日本人街など移民の街が形成されている場所がある。</p> <p>【食べ物】 移民が多くさまざまな国の料理が味わえる。</p> <p>【チップ】 アメリカではチップの支払いがマナー。</p> <p>【カード】 クレジットカードが非常に普及しており、現金を利用する機会がほとんどないほどクレジットカード決済が主流となっている。</p> <p>【習 慣】 室内でも靴のまま過ごす。</p> <p>【銃社会】 自分の身は自分で守るという「自己防衛という伝統的な考え」が生まれ銃を護身用を持つ人が多い。反面、銃による死亡が2020年に米国の子供と若者の死因のトップになり、米国の若者の銃による死亡率はフランスの11倍、ドイツの36倍、日本の121倍となっている（ワシントンロイター2024年6月25日）。連邦法ではライフルは18歳以上、拳銃は21歳以上から購入可能となるが実際に所持には、州によって異なる。</p>

14. 出典

- 1)CIA. The World Factbook, 2024, <https://www.cia.gov/the-world-factbook/countries/united-states/#people-and-society>
- 2)CDC. National Center for Health Statistics, Deaths and Mortality, 2022, <https://www.cdc.gov/nchs/fastats/deaths.htm>
- 3)IHME. United States of America, 2021, <https://www.healthdata.org/research-analysis/health-by-location/profiles/united-states?language=41>
- 4)出入国在留管理庁. 令和5年6月末現在における在留外国人数について, 2023, [https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13\\_00036.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00036.html)
- 5)Study.com.(2023).American Culture | Overview, Characteristics & Examples.<https://study.com>
- 6)Shorelight.(2023).American Culture. <https://shorelight.com/student-stories/culture-of-usa>
- 7)University of Colorado Boulder.One American Identity.(n.d.). Two Distinct Meanings.<https://www.colorado.edu>
- 8)InterExchange.(2017).10 Things to Know About U.S. Culture. <https://www.interexchange.org>.
- 9)Craig,B et al.(2018).Evaluating Medical Decision-Making Capacity in Practice.American Family Physician. 2018;98(1):40-46.
- 10)National Insititute on Aging.(2020).Discussing Health Decisions with Your Doctor.<https://www.nia.nih.gov>.
- 11)Norman J.K.(2012).Medical decisions are not just about the facts.Neurol Clin Pract.2012 Jun; 2(2):122–128.
- 12)Anurag K.(2023).Empowering Patients: The Importance of Taking Control of Your Health and Healthcare. <https://www.linkedin.com>.
- 13) NIH. Advance Care Planning: Advance Directives for Health Care, 2022, <https://www.nia.nih.gov/health/advance-care-planning/advance-care-planning-advance-directives-health-care>
- 14)Hanacell(2022).アメリカの食文化は日本とこんなに違う！？外食・食材調達も解説.<https://www.hanacell.com>
  
- 15)The spruce eats(2023).Defining American Cuisine.<https://www.thespruceeats.com>
- 16)162nd wing.Guide to the American Culture. <https://www.162wing.af.mil>
- 17)SLO Food bank(2023).Food as culture:Cuisine, Food Customs and CulturalIdentity.
- 18)Settle In.(2024). Hygiene in the United States.<https://www.settlein.us>
- 19)Essity.(2018).2018 US Survey Reveals Concerns Over Handwashing and Hygiene in Public Places. <https://www.essityusa.com/media/us-news/hygieneandhealthreport>
- 20)The commonwealth fund. (2019).Health Care in America., <https://www.commonwealthfund.org>
- 21)Jacob P. Olejarczyk.,Michael Young.(2024).Patient Rights and Ethics. <https://www.ncbi.nlm.nih.gov>
- 22)The commonwealth fund(2019).AMERICANS’ VALUES AND BELIEFS ABOUT NATIONAL HEALTH INSURANCE REFORM., <https://www.hsph.harvard.edu>
- 23)Brach, C. & Fraser, I. 2000. Can cultural competency reduce racial and ethnic health disparities? A review and conceptual model. Medical Care Research and Review, 57 (Supplement 1), 181-217.
- 24)木島美穂他. 無痛分娩の始動, 日大医学雑誌, 82 (1): 29-34, 2023, [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjoffamilysociology/33/1/33\\_41/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjoffamilysociology/33/1/33_41/_pdf)
- 25)CDC. National Center for Health Statistics, Births - Method of Delivery, 2022, <https://www.cdc.gov/nchs/fastats/delivery.htm>
- 26)ASRM. Gestational Carrier (Surrogate), 2023, <https://www.reproductivefacts.org/news-and-publications/fact-sheets-and-infographics/gestational-carrier-surrogate/>
- 27)Bewket et al.(2023).Cultural Beliefs and Traditional Practices During Pregnancy, Child Birth, and the Postpartum Period in East Gojjam Zone, Northwest Ethiopia: A Qualitative Study.Womens Health Rep (New Rochelle). 2023; 4(1): 415–422.
- 28)Vani et al.(2020).Cultural conceptions of Women's labor pain and labor pain management: A mixed-method analysis. Social Science & Medicine Volume 261, September 2020, 113240
- 29)CDC.(2023).Many Women Report Mistreatment During Pregnancy and Delivery. <https://www.cdc.gov/vitalsigns/respectful-maternity-care/index.html>.

- 30)Midwife schooling.com.(2019). CNM, CPM, CM, Doula: Understanding Midwifery Roles, Credentials, and Scope of Practice. <https://www.midwifeschooling.com>
- 31)American college of nurse-midwives.(2022). Comparison of Certified Nurse Midwives, Certified Midwives, and Certified Professional Midwives. <https://www.midwife.org>
- 32)Marc H.B. (2015).Culture, Parenting, and Zero-to-Threes.Zero Three. Mar; 35(4): 2-9.
- 33)Touro University worldwide. (2019).What is Child-Rearing?. <https://www.tuw.edu>
- 34)Pew Reseach Center. (2023).How Today’s Parents Say Their Approach to Parenting Does – or Doesn’t – Match Their Own Upbringing. <https://www.pewresearch.org>
- 35)船橋恵子. 育児の国際比較研究における文化と政治, 家族社会学研究, 32(1):5-6, 2020, [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjoffamilysociology/32/1/32\\_5/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjoffamilysociology/32/1/32_5/_pdf)
- 36)CDC. Trends in In-Hospital Newborn Male Circumcision -United States, 1999-2010, MMWR. Morbidity and mortality weekly report, Sep 2;60(34):1167-8, 2011, <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/21881548/#:~:text=In%20the%20United%20States,%20rates%20of>
- 37)外務省. 海外安全ホームページアメリカ合衆国（米国）安全対策基礎データ, 2023,
- 38)内閣府. 第9回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査（全体版）, 2021, [https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r02/zentai/pdf\\_index.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r02/zentai/pdf_index.html)
- 39)Scientific Research.(2017).Aging in America: Ageism and General Attitudes toward Growing Old and the Elderly. <https://www.scirp.org>
- 40)National Insititute on Aging.(2023).Providing Care to a Diverse Older Adult Population. <https://www.nia.nih.gov>.
- 41)WHO. (2016). Discrimination and negative attitudes about ageing are bad for your health. <https://www.who.int/news/item>
- 42)Pew Research Center. (2009).Growing Old in America: Expectations vs. Reality. <https://www.pewresearch.org>.
- 43)National Insititute on Aginag. (2024).10 Common Misconceptions About Aging. <https://www.nia.nih.gov/health/healthy-aging>.
- 44)NHPCOFY.(2011). National Summary of Hospice Care. <https://www.nhpc.org>
- 45)EthnoMed.(2012).Cultural Relevance in End-of-Life Care. <https://ethnomed.org>
- 46)Zachary et al.(2019). Making End-of-Life Care Decisions for Older Adults Subject to Guardianship. Elder Law J. 2019; 27(1): 1-34.
- 47)朝日新聞GLOBE+,「土葬の国」は今昔？ アメリカ・ジャズ発祥の地で、タブーだった火葬が増えたわけ, 2023, <https://globe.asahi.com/article/14847209>
- 48) Amir Babiker et al.(2014). Health care professional development: Working as a team to improve patient care.Sudan J Paediatr. 2014; 14(2): 9-16.
- 49)Kobayashi Medical Clinic. アメリカ医療の基礎知識 : 医療制度について. <https://www.kobayashi-naika.com>.
- 50)HHS . US Dept Health & Human Services, Original Medicare (Part A and B) Eligibility and Enrollment, 2020, <https://www.hhs.gov/guidance/document/original-medicare-part-and-b-eligibility-and-enrollment-0>
- 51)CDC. National Center for Health Statistics Medicaid, 2024, <https://www.cdc.gov/nchs/hus/sources-definitions/medicaid.htm>
- 52)JMTX.(2023). アメリカの医療保険制度. <https://jm-tx.org/houstonmedical>
- 53)The commonwealth fund. (2024).International Health Care System Profiles United States. <https://www.commonwealthfund.org>.
- 54) Roger Bulger.(2015).Establishing a national culture of health and its values.J Thorac Dis. Jan; 7(1): 111-114.
- 55)Alana et al.(2019). Americans’ Health Mindsets: Content, Cultural Patterning, and Associations With Physical and Mental Health.Annals of Behavioral Medicine, Volume 53, Issue 4, April 2019, Pages 321-332.
- 56)Health policy institute(n.d.). Cultural Competence in Health Care: Is it important for people with chronic conditions?. <https://hpi.georgetown.edu/cultural>
- 57)文部科学省.「諸外国の教育統計」令和2（2020）年版, 2020, [https://www.mext.go.jp/content/20200821-mxt\\_chousa02-000009501-01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200821-mxt_chousa02-000009501-01.pdf)
- 58)NCES. Status Dropout Rates, 2024, <https://nces.ed.gov/fastfacts/display.asp?id=16>

担当者：木全 明子（目白大学看護学部）、リトル 奈々重（St Luke's Clinic）  
承認日：2025年3月1日